

1、背景、目的

近江は、琵琶湖を中心に多くの山々に囲まれた風光明媚の地より、我が国の八景式風景鑑賞で最も有名な近江八景が生まれた。この八景を題材とした絵画は、今日までの歴史的評価に耐えており、その構図は景観鑑賞法としての普遍性を持つ。そこで本研究では、この近江八景を再現するために、①近江八景の構図、及び視点場の地形の形状から近江八景の空間構成を解明し、②その空間の現況評価から八景の名にふさわしい景観を再現するための整備案を提示する。

2、近江八景図の構図の解明

まず、絵になる景観として一般に認知された近江八景図の構図を明らかにする。過去に描かれた近江八景図4点を抽出し、視対象の基本的な要素（水・緑・建築・道）のそれぞれの絵画における、構成比、配置、各距離景などから八景図において以下の特徴が見られた。

1. 水の絵画における構成比が高いことから、水すなわち琵琶湖は八景に不可欠な要素である。
 2. 八景の各地にはランドマークが存在し、そのランドマークが絵画の主景となっている。
 3. 遠景には必ず山体が描かれることから、八景の背景には山体が必要な要素となる。
- またそれらの要素の配置から、八景の構図は以下の2つに分類することができた。

①シーン型（図2-1）

琵琶湖—ランドマーク—山体の順に、各構成要素が横長の縞模様に配置され、ランドマークを水際線に対し垂直方向に眺める構図。

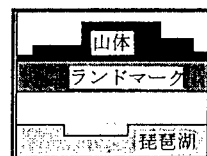


図2-1 シーン型

②ビスタ型（図2-2）

ランドマーク—琵琶湖—山体の順に、各構成要素が斜め状に配置され、ランドマークを琵琶湖の水際線に対し、鋭角方向に眺める構図。

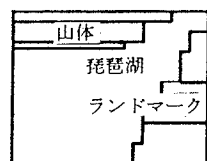


図2-2 ビスタ型

また、近景および中景域までしか描かれていない絵画は、画面全体にランドマークを配していることから、これらの絵画をランドマーク卓越型とし（図2-3）、各々の絵画を分類すると、八景の各地の構図は、以下に分類された（表2-1）。

表2-1 近江八景と構図の分類

構図による分類型	近江八景
シーン型	三井晩鐘、矢橋帰帆
ビスタ型	石山秋月、堅田落雁、唐崎夜雨、瀬田夕照、粟津晴嵐
ランドマーク卓越型	比良暮雪

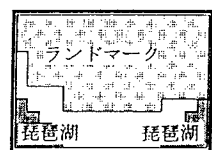


図2-3 ランドマーク卓越型

3、近江八景の空間構成

絵画で描かれた空間のなかで明確に描かれている領域である近景及び中景域の地形の形状を、明治26年測量の地図を基に景観図を作成した。これらより、視点場周辺の湖岸線の形状を①水道型、②出島崎型、③浦型、④連山内海型の4つに分類し、（表3-1）先に述べた絵画における構図と比較した結果、近江八景の空間は以下の特徴を持つことが分かった。（表3-2）

表 3-1 視点場の形状の分類

視点場の形状	近江八景の視点場
水道型	瀬田、石山、粟津
出島崎型	堅田、唐崎
浦型	三井、矢橋
連山内海型	比良

表 3-2 近江八景の空間構成

	シーン型	ビスタ型	ランドマーク卓越型
水道型		石山、瀬田、粟津	
浦型	三井、矢橋		
出島崎型		堅田、唐崎	
連山内海型			比良

4、現況評価

これまでに明らかになった八景の空間構成の現況を、①人工物を除いた状態、②人工物を含めた状態で評価した。

① 建物などの人工物を除いた状態の評価（絵図と CG のオーバーレイ）

- ・湖岸線が埋め立てられた粟津・矢橋を除き、原地形が現存する。

② 実際に存在する空間の評価（八景を構成する 3 要素を現地写真により評価）

- ・比良…3 要素をすべて満たす。
- ・ビスタ型+水道型（瀬田・石山）…唐橋中ノ島の改変および唐橋東端の商業地域によるスカイラインの破壊が見られる。（「琵琶湖」の要素のみ満たす）
- ・シーン型+浦型（三井）…市街化によりランドマークが不可視となっている。（「琵琶湖」、「山体」の要素を満たす）
- ・ビスタ型+出島崎型（唐崎・堅田）…近代的な護岸整備による水際線の改変が見られる。（「ランドマーク」、「山体」の要素を満たす）

5、今後の提案

本来の近江八景を再現するために、次の整備案を提示する。

- ① 粟津・矢橋…現存する松並木、常夜灯などの象徴的なモニュメントをランドマークとして保存し、新たに湖岸に移設した地点で、八景の擬似的な体験ができる場にランドマークを復元し、湖岸を修景する。
- ② ビスタ型+水道型（瀬田・石山）…唐橋中ノ島を第一種低層住居専用地域に、また唐橋東端の商業地域を第 2 種低層住居専用地域に指定し、共に第一種高度地区の規制を適用する。
- ③ シーン型+浦型（三井）…琵琶湖～三井寺間の商業地域を第 2 種低層住居専用地域に指定し、第一種高度地区の規制を適用する。
- ④ ビスタ型+出島崎型（堅田・唐崎）…視点場周辺から湖への突出施設を除き、護岸を歴史的な天然の石積みに修景する。

6. まとめ

本研究では次の結論が得られた。

- ・近江八景は本来、「ランドマーク」・「琵琶湖」・「山体」の 3 要素の配置により得られる景観であり、その空間は 4 種に分類することができた。
- ・現在、近江八景の中で上記の 3 要素をすべて満たす眺望は少なく、近景から遠景までを考慮した景観計画が求められる。